



あけましておめでとうございます



“支えきる”決意をあらたに

～感謝とともに～

理事長 西田 良枝

地域の中で自分らしく共に暮らし続けられることへの強い願いを持って、マンションの一室ではじまったパーソナル・アシスタンスともの活動は、NPOから社会福祉法人と形を変え、今年、10周年を迎えることになりました。

この10年間、ほんとうにどれだけの多くの方々に出会い、様々な立場の方々に支えられ、教えられてきたのだろう…と思うと、あらためて、心から感謝の気持ちがわいてきます。そのお一人おひとりに、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

パーソナル・アシスタンスとものを立ち上げたのは、措置制度の最後のころ。浦安には障害福祉のサービスを行う民間の事業所はなく、ましてや、入所施設でもないのに、24時間365日のサービスを提供すること。障がいの種別を超えて、さらに、障がいの有無も問わずサービスを提供することは、全国的にも珍しいことでした。「とも」をスタートした当初は、障がいのない子どものご利用もありました。

今では、子育て支援制度も充実し、障がいを持たない子どもは「とも」を利用する必要がなくなり、子育て支援の社会資源を利用するようになりました。障害福祉サービスは、「行政処分」の結果支援が受けられる措置制度から、利用者がサービスを選択できる利用契約制度となり、障害者自立支援法のもと、浦安市内にも様々な障害福祉サービスを提供する事業所が存在するようになり、たくさんの方が福祉サービスを利用できるようになりました。

浦安市では、その人に必要な障害福祉サービス量が支給決定され、24時間365日の相談支援事業があり、夜間安心訪問ヘルプなどセーフティネットを担う事業が行われるなど、まさに、地域での暮らしを望めば実現できるようになりました。ただし、地域の中で暮らす“住まい”があれば…。あわせて、生活を支えるヘルパーなど支援者の確保ができれば…ではありません。

そして、人が人生を全うする中で、また、障がいを持つ人などが地域生活を送る中で必要となるターミナルケアや、生活の中に組み込まれた医療的ケアなどを提供できる仕組みや社会資源は、これから用意される必要があります。

10周年を迎え、次のステップは地域での自分らしい暮らしを望む人を“支えきる”実践をすること。「とも」を設立した時と同じように、必要と思うものがなければ、みんなの力で創り出していく。その姿勢を貫いて行ける「とも」でありたいと思います。

## 「スウェーデンの高齢者福祉（2）」

### ケアの質を高めるための仕組み

スウェーデンでは、ケアの質を高めるための仕組みがしっかりできているように感じました。日本でも、介護の質を保つために介護保険事業者がチェックリストで自己評価を行い、都道府県に提出したり、第三者評価を受けて結果を公表したりしています。しかし、結果の公表内容が分かりにくく、評価結果が、利用者がサービス事業者を選択するための役に立っていないのではないか、という疑問も出ています。



ケアのチェックリストは、本人に見えないように食器棚の扉の内側に貼ってあった



様々なケアのチェックリスト

て記録に残し、ソールナ市に報告し統計を出します。不服や意見を大切にするようにしているということでした。

日本でも、苦情解決の仕組みがあります。事業者は、苦情受付担当者と苦情解決責任者を決めて、苦情の解決をしなくてはならないことになっています。しかし、年間の苦情件数がゼロという事業者も少なくないと聞きます。本当にサービスに満足しているのか、苦情があっても言えないのかのどちらかです。日本では、コンタクトパーソンという制度がないので、本人や家族が直接事業者には伝えなくてはならないため、苦情を表明しにくいと言えるかもしれません。また、日本では「苦情解決」という狭い枠の仕組みになっていますが、スウェーデンは、意見も含めた利用者の幅広い申し立てに対応する仕組みになっていることも感じました。

ケアの質は、ベストのクオリティーが必要と考えており、クオリティーを保つための委員会をつくって、抜き打ちで監視を行い、質が低下しないようにコントロールをしているそうです。監視の結果は、毎年、ソールナ市の高齢者福祉委員会に報告され、さらに新しい目標をつくり、計画が達成されるように取り組んでいるということでした。国の機関にケアの質を監視する機関があり、社会福祉庁が健康・福祉・医療の監視、県が介護・ケアの監視をしているそうです。バリアの所長は、このコントロールの仕組みは、よいサポートや指導をもらうことができるので、とてもよいと言っていました。「監視」というと「取り締まり」のような印象を受けますし、実際に、日本では、行政が介護保険法や障害者自立支援法の事業者に対する指導・監査を行っていますが、「取り締まり」という印象を受けます。しかし、スウェーデンでは、悪い部分を指摘するというよりも、質を上げるためにどうしたらいいかをアドバイスすることが目的のように感じました。

今年、高齢者が家に閉じこもっていることが、マスコミで大きく取り上げられたそうです。ソールナ市では、それを受けて、高齢者が週2回は外に出て散歩することを目標にして、統計を取り検証しようということになりました。高齢者は、スタッフから「散歩はいいですか？」と聞かれます。すべての高齢者が散歩に行きたいわけではありませんが、「どうですか？」と意思を聞き、その答えを記録に残します。記録は、市議会の専門委員会のひとつである高齢者福祉委員会に提出されます。高齢者福祉委員会は、与野党の市議会議員と市役所の高齢者福祉部長で構成され、政策的意図に沿って高齢者福祉の現場が取り組まれているかを確認しています。高齢者福祉部長は、現場にも足を運ぶそうです。委員会では、市議会議員と高齢者福祉部長が対等に話し合いますが、決定権は市議会議員にあるということでした。市議会議員が、ケアの質の向上に直接関わっていることも、市議会議員の役割のあり方が日本と随分違うことを感じました。



日光浴ができるグループホームのテラス

## 浦安市地域自立支援協議会 活動報告

11月9日(火)、障がい福祉分野の担い手不足を解消するため、事業者支援・制度プロジェクトで議論した「議論するだけでなく行動する」ことの実策として、浦安市と浦安市地域自立支援協議会が主催で、「浦安就職フェア 浦安で働きませんか!～これからの“障がい福祉”があるまち～」を浦安ブライトンホテルにて開催いたしました。浦安市をサービス提供地域とする訪問介護、就労訓練、地域活動支援センターなど様々な事業を運営する15事業所が事業所説明ブースを設けました。

11時の開始時間から順調に来場者の方が来られ、16時の閉会時間までに、計63名の方が浦安就職フェアに来場されました。

福祉分野の担い手不足は全国的な問題で、横浜市でも就職フェアを開催しています。横浜の人口規模は浦安の約10倍で、横浜市の就職フェア参加者数は200名。事務局では、横浜と浦安の人口比率から、浦安就職フェアの来場者数を横浜の10分の1程度ぐらいかと想定していました。63名の方が浦安就職フェアに参加されたということで、今回の試みは大成功だったと思います。



上映会で挨拶をする市長

事業所が一人の人材を採用するために必要とされる経費は莫大な額となるため、各事業所には大きな負担となっています。今回のように複数の事業所が合同で就職フェアを開催することは大変有効であり、今後、63名の来場者から何名の方が採用となったのか追跡調査を行い、次号のとも通信で報告したいと思います。

同日、13時から「もっこす元気な愛」の上映会を行いました。上映会には、159名の方が参加。出生時の脳障害により手足の一部に麻痺が残り、手が使えないため、生活全般を足で行う倉田哲也さんのドキュメンタリー映画で、多くの障がいのある当事者の方が来場されていました。上映会のあと、総合相談には参加された当事者の方から、「自分の人生と重ねて映画を見た。色々と考えさせられる事が多くて、まだ頭がグルグルしている」「すごいと思った。倉田さんみたいに、自分も無理だと思っていたことに挑戦していきたい」と感想が寄せられました。

この浦安就職フェアが、浦安の障がい福祉分野で働きたいと思う人たち、そして、自分らしい生き方を実現したいと映画を通して「元気」を受け取った障がいのある当事者の方たちをつなぐ場となり、支援が必要な障がいのある方を支える担い手が一人でも増えていることを期待しています。

【浦安市障がい児・者総合相談センター 矢富】

### ともの今日

## 千葉県「笑顔いっぱい!フレンドリーオフィス」に認定されました



笑顔いっぱいフレンドリーオフィス

千葉県では障がいのある人の雇用に対する理解と促進を図るため、障がいのある人を積極的に雇用し、障がいのある人もない人も共に働いている事業所を「笑顔いっぱい!フレンドリーオフィス」として認定し、その取組内容を公表しています。

平成22年11月12日、パーソナル・アシスタンスとももフレンドリーオフィスに認定され、理事長が認定書授与式に出席しました。今後も、障がいがあってもなくてもともに暮らしていける地域づくりを目指し、活動していきます。

#### 認定の目的

1. 働く意欲を持つ障がいのある人の、働く場所の不足の解消
2. 障がい者雇用の経験のない企業や雇用上の課題を解消したいがノウハウがない企業への事例紹介

#### 認定基準

1. 障がい者雇用の積極性
2. 雇用継続への取り組み
3. 働いている人の雰囲気等
4. 障がい者支援への独自の取り組み
5. 法令の遵守状況



森田県知事から表彰状を受け取る理事長



森田県知事と受賞者のみなさん

〈編集後記〉Xmas会では童心に返って歌を歌い、お餅をつきました!地活のホームページのお披露目もありました。⇒ <http://www.tomopia.jp/> 【M】